

平成28年度 総合情報基盤センター 外部評価報告

1. はじめに

総合情報基盤センター（以下、「本センター」）では、改組前（法人化前）の学術情報処理センターの頃より、毎年の自己点検評価に加えて、平成26年度までは4年ごと、平成28年度からは2年ごとに外部評価を実施してきた。平成28年度は外部評価の年度にあたり、平成26年度及び平成27年度を対象に、平成28年12月に外部評価を実施した。平成28年度の外部評価委員は、以下の2名の方々に依頼した（50音順）。

森木 武 株式会社佐賀IDC 代表取締役社長

吉田 和幸 大分大学 学術情報拠点副拠点長（情報基盤センター担当）

外部評価委員会では、本センターの活動全般についての説明に続いて、質疑応答を行い、総合情報基盤センター（本庄地区）及び附属図書館の見学の後、総括質疑を行った。

2. 外部評価委員会概要

| | |
|-----|--|
| 日時 | 平成28年12月9日（金）14時～17時 |
| 場所 | 事務局2階大会議室 |
| 出席者 | 外部評価委員 森木 武 株式会社佐賀IDC 代表取締役社長 吉田 和幸 大分大学学術情報拠点副拠点長 （情報基盤センター担当） 佐賀大学 松前総合情報基盤センター長、只木総合情報基盤センター副センター長、堀総合情報基盤センター副センター長 |
| 陪席者 | 総合情報基盤センター 日永田准教授，江藤助教，小野技術専門員，松原技術専門職員，田中技術専門職員 情報管理課 原田情報管理課長，浅岡情報管理課専門職，木下情報管理課係長，牛嶋情報管理課主任，内田情報管理課事務員 |

(1) 次第

- 14:00 開会挨拶
(佐賀大学総合情報基盤センター長 松前 進)
- 14:05 佐賀大学総合情報基盤センター概況報告
(佐賀大学総合情報基盤センター副センター長 只木 進一)
- 14:45 質疑応答
- 15:05 佐賀大学総合情報基盤センター及び附属図書館視察
- 15:30 休憩
- 16:00 質疑応答
- 16:30 外部評価委員講評
- 16:45 閉会挨拶
(佐賀大学総合情報基盤センター長 松前 進)
- 17:00 閉会

(2) 質疑応答

- 内部監査
- ユーザIDの管理
- 教育用端末
- IPアドレスの管理
- 業務のアウトソース
- 情報セキュリティ教育, コンプライアンス教育
- 鍋島地区及び附属学校等, 遠隔施設の管理
- 包括ライセンスの管理
- 学生の端末 (BYOD)
- opengate のリスク管理
- webハウジングの既成の有無
- 部局管理のサーバについて
- 文部科学省の指導の有無
- インシデント対応体制 (CSIRT の役割等)
- センター職員の教育
- I SMSのようなマネジメントシステムの構築

(3) 講評

- アウトソースの活用
- 遠隔施設の管理

3. 評価概要

(1) 自己点検・評価の体制については、体制を確立し、毎年自己点検評価報告書を作成、改善に役立てていることを評価していただいた。なお、点検評価方法に関して、ISO などのマネジメントシステムを参考にしてはどうかという提案をいただいた。

(2) 理念と目標については、非常に広範な業務を対象としているにもかかわらず、現在の体制で活動していることを評価していただいた。

しかしながら、これら広範な業務に対応するために、組織体制や人員配置について、アウトソースの活用も含めて見直しを検討すべき時期にきているとの指摘がなされた。

(3) 情報基盤の整備と運用については、シンクライアントの本格導入や認証システムの開発・運用など、先進的な試みも多く他大学の参考になっているとの評価をいただいた。今後のBYOD利用、クラウド利用、情報セキュリティ体制の強化、といったことについて意見交換を行った。

なお、ピーク時の対応体制について、繁忙期のアウトソース対応などを検討してはどうかという助言をいただいた。

(4) センター管理のシステムについては、サーバ系とネットワーク系を分けて調達するなど、システム特性をうまく考慮して調達を実施していると評価していただいた。

一方で、調達規模が大規模になり過ぎ、業務負荷が高くなっているという指摘がなされ、独立性の高いものは一括調達から分離する等のご助言をいただいた。

また、リスク管理の重要性から、ISO の情報セキュリティマネジメントシステムの活用などの検討を勧められた。

(5) 教育活動については、本務とは別に、講義や学生指導などを通じて貢献していると評価いただいた。研究活動についても、センター業務と関連の深い研究が行われ業務にもフィードバックされていることや、センター主催で毎年開催している統合認証シンポジウムの活動なども、高く

評価していただいた。

- (6) 教員配置については、多岐にわたる業務を限られた人員で実施している点が指摘された。

人材のスキル教育については、地域内 IT 企業などとの連携や共有を行うことにより、コンテンツ作成の容易性やコスト削減が期待できるのではないか、との提案をいただいた。

教員や技術職員のキャリアパスについては十分でないとの懸念があり、全学的な取り組みの必要性が指摘された。

- (7) 事務機構については、附属学校をはじめとする遠隔地の大学施設にセンター職員が不在である点への懸念が示された。ICT 関連の業務や、情報セキュリティ関連の業務の今後の増加傾向を考慮すれば、大学として体制強化に取り組む必要性が指摘された。

- (8) 大学運営への貢献については、統合認証システムの維持管理、シングルサインオン推進による利便性向上、仮想基盤上への事務情報システムの集約、大学データベースの運用など、貢献していると評価していただいた。

社会貢献についても、国際会議参加による国際交流や、学会役員、国立情報学研究所の委員、佐賀県審議会の委員などを通じた活動を評価していただいた。

- (9) 外部評価の体制について、適切なものであると評価いただいた。

- (10) 月1回の運用委員会でのセンター活動報告、センター主催で毎年開催している統合認証シンポジウムなど、適切に情報発信をしているとして評価していただいた。

- (11) 前回の外部評価での指摘事項は、平成 26 年度末のシステム更新の際にシステム等に反映されてきたと評価していただいた。また、CSIRT の設置等、検討が必要なものについては継続して検討が行われていると評価いただいている。(※CSIRT は平成 28 年度に設置された)

なお、改善の影響や有効性の測定・確認を継続的に行うことができれば、より良いものになるとの提案をいただいた。

4. まとめ

最初に、ご多忙のなか外部評価を実施していただいた委員の皆様には感謝いたします。我々総合情報基盤センターの活動内容を理解いただき、適切な評価、指摘、助言をいただくことができました。また、資料作成、委員の方との調整、会場準備などご協力いただいたセンター及び情報管理課のみなさんにも感謝いたします。

外部評価の結果は、概ね良好であったと考えます。指摘いただいた事項は、我々も以前から認識し検討する必要性を認識していたものであり、外部評価委員により適切に認識・評価をしていただいた結果であると考えます。特に「総合情報基盤センターの業務が年々大きくなっており、その業務負荷に対応するため人材・組織体制の強化が必要である」との指摘は、これまでの外部評価でも繰り返し指摘されている課題であり、改善が急務であると考えます。

ご指摘いただいた課題については、いただいた提案、助言なども参考にしながら、改善に向けて取り組んでいきたいと考えています。

佐賀大学総合情報基盤センター外部評価報告書

平成 29 年 1 月 25 日
株式会社 佐賀 I D C
代表取締役 森木武

平成 2 8 年度に実施しました、標記の件について、下記の通り報告します。

記

1. 自己点検・評価の体制について

基盤センターの目的と目標への活動としての自己評価をされていることは大変に評価ができると思います。

I S O などのマネジメントシステムの要素も取り入れていかれると、より一層に明確な活動とその点検・評価ができるものと考えます。

2. 本センター設置の理念と目標について

基盤センターが担う事業業務は対応する幅も広く、現在の体制で活動をされていることは素晴らしいことであると考えます。

情報セキュリティのリスク対策も昨今はより高度化してきています、人材や体制の確保、また、外部委託の活用などバランスのとれた管理運用体制として、体制強化も望まれるものと考えます。

3. 情報基盤の整備と運用について

業務対応の体制の課題は対応ピークの時期などのことも想定考慮すると、繁忙期のアウトソース対応がどのようにできてゆくのかがポイントになると思われれます。

地場にも多くの I T 企業が活動をされているので、地域連携人材交流を含めて、アウトソース基盤としての利活用が期待されると考えます。

4. 本センターのシステムについて

ネットワーク及び提供サービスのためのシステム機器群やそれらが稼働するための環境基盤など様々なリソースが稼働していると考えます。

提供サービスの可用性や機密性、データの完全性など場面に応じたリスク管理も必要です。それらの対応について ISO/IEC27001 情報セキュリティマネジメントシステムを導入し活用することはリスク対策の見える化にもつながり良い成果がより明らかになると考えます。ご検討されることをお勧めいたします。

5. 本センターの活動について

(1) 教育活動

講義への対応及び教職員の情報リテラシへの対応を含めて、教育活動をされていること。事業運営での体制課題との兼ね合いでもありながら、教育活動は重要な基盤センターのファクタでもあり、良い活動をされていると考えます。

(2) 研究活動

分野における研究も基盤センターの事業業務に関係した研究の場面、また成果も事業内容へフィードバックできるものとして良い活動をされていると考えます。

6. 本センターの教員配置について

体制の課題は報告書内の各種フェーズで報告されています。体制強化や人材スキルの確保は現状の基盤センターにとっては急務のことかもしれません。

また、人材のスキル教育については地域のIT企業などにおいても同様に必要なファクタでもあり、地域内では企業各社毎にも、また地場IT企業で構成する佐賀県ソフトウェア協同組合でもITスキル教育に注力しています。

相互に情報交換やスキルアップの教育の場面について連携や共有を行うことができれば、教育カリキュラム作成の容易性やコスト削減など検討ができるのではと考えます。

7. 本センターの事務機構について

人員不足の課題、是非に人員増員の検討をされ、地場雇用に繋がると大変に良い形になると考えます。

8. 大学運営に対する貢献、国際交流、社会との連携について

・基盤センターの事業業務は、佐賀大学の運営にとってなくてはならないものになっていると思います。高い技術と高いセキュリティをもとに安心安全に利用できるように継続した改善を含めた活動が良くなされていると考えます。

・佐賀大学において国際的な交流イベントなどが開催されると、多くの人材交流ができるようになり、大変良い活動になると考えます。

・地域社会との連携も必要適切に実施されていると考えます。

9. 外部評価の体制について

自己点検の内容を外部評価として外部委員へ説明をされその報告を受けられ、また、その内容をもとによく検討をされ、継続的な改善活動へつながっていることは大変に良い活動をされていると考えます。

今後も外部評価を継続されることは外部の見識に触れ、改善の機会にもなってゆくと考えます。

10. 組織の活動に関することについて

報告の内容でみられるように、基盤センターの組織活動は大学の組織改革また学内よりの要求に応じて多彩な活動を実施されています、報告書の中でも課題となっている、体制・人材、組織の強化も今後の対応として必須になると考えます。

11. 前回の指摘事項に対する本センターの対応について

必要適切なものとして指摘事項への対応の取り組みをされており大変良い活動をされておられます。もし可能であれば、継続的にその指摘事項の改善がどのような場面に影響し有効性がどのようにあったのか確認して有効性の評価ができると、より良いものになってゆくと考えます。

12. まとめ

全体を通して、基盤センターが担う事業内容の幅も労力も責任も年を重ねることに大きなものとなっています。

これから先も、サービス提供の品質の維持、ステークホルダよりの要求事項への対応、情報セキュリティの新たなリスク課題への対応などなど、人材・組織体制の強化など地域社会とのアウトソースの活用も含めて、より多くの検討もされ継続的な改善取り組みをされてゆかれることと存じます。

今回の報告の中でも触れていますが、基盤センターの組織としてのマネジメントシステムの構築をされてゆかれますと、よりスムーズに各種様々な課題への対応と、有効性を明らかにできるなど、より良い活動の一助になると推察されます。

今後も基盤センターの活動方針と目的目標への取り組みに邁進され、より良い学内の基盤センターとして機能しご活躍されることを期待いたします。

佐賀大学総合情報基盤センター外部評価報告書

作成日：平成29年 1月31日

所 属：大分大学

学術情報拠点 情報基盤センター

氏 名：吉田和幸

平成28年度に実施しました佐賀大学総合情報基盤センター外部評価につきまして、自己点検・評価報告書および平成28年12月9日に開催されました外部評価委員会での説明、施設見学をもとに、下記の通り報告します。

記

1. 自己点検・評価の体制について

自己点検・評価の体制を確立し、毎年、自己点検・評価報告書を作成し、問題点の洗い出し、改善をされていることは評価できます。

2. 本センター設置の理念と目標について

基幹ネットワークや、ICT 共通基盤システム、教育研究用システムの構築・維持ばかりでなく、電子図書館、大学データベース、事務情報等、学内の広範な ICT 関連業務が、センターの設置目的に挙げられております。さらに学内への技術支援のみならず、地域情報化への技術支援もされていることは特筆に値すると思います。

これらの広範な業務を遂行するための組織体制、人員配置に関しては、検討すべき時期ではないでしょうか？

3. 情報基盤の整備と運用について

大学の ICT 基盤の整備は本センターの主要業務であります。教育用端末や事務用端末へのシンクライアントシステムの本格的導入や、認証システムの開発・運用など先進的な試みも多く、他大学の参考になっております。今後、BYOD の利用、クラウドの活用、情報セキュリティ体制の強化等、様々な課題が出てくるとと思いますが、これらに対応する新たな挑戦に期待します。

4. 本センターのシステムについて

サーバ系、ネットワーク系といったシステムの特性に合わせたリース期間の設定などシステム構築に様々な工夫がされております。大規模な調達では、認証システム等共通基盤とそれを利用する各システムとを同時に調達することから円滑な連携が期待できます。しかしながら、多岐にわたる大規模なシステムの調達はセンターの業務負担が大きくなります。独立性の高いものは、むりに一括調達に含めない等の工夫をする余地はあると思います。

5. 本センターの活動について

(1) 教育活動

教養科目としての情報処理基礎科目の一部を受け持つとともに、学部、大学院の専門科目の講義、卒業研究、大学院生への研究指導も行っており、センター業務から得られた現場の経験を専門教育に生かしていると評価できます。

(2) 研究活動

OpenGate, シングルサインオンといったセンターだからこそできる認証関連の研究が活発に行われており、その成果がシステムの設計・運用にフィードバックされています。また、統合認証シンポジウムを長年にわたって開催し、他大学へも情報提供していることは、大いに評価できます。

6. 本センターの教員配置について

センターの多岐にわたる業務を限られた人員で実施しております。教員の専門性の観点から理工学部がある本庄キャンパスに集中していることは理解できる。技術職員、技術補佐員を鍋島キャンパスにも配置し、システム運用や利用者サービスにあたっている。緊密な連携によりシステムの運用が円滑に行えていると評価できます。教員、技術職員のキャリアパスに関して、十分ではないことが懸念されます。これに関しては、全学的な取り組みに期待します。

7. 本センターの事務機構について

鍋島地区は、医学サブセンター長と3人の技術職員、技術補佐員で運用しております。附属学校をはじめとする遠隔地の大学施設には、当然ながらセンターの職員が配置されておりません。利用者への対応など各キャンパス間のさらなる連携が望まれます。ICT 関連の多くの業務を引き受けており、今後継続的に実施することが必要な業務であるます。さらに情報セキュリティに関連する業務も多くなってくると思われまます。これらに見合う体制強化は大学として取り組むべき課題です。

8. 大学運営に対する貢献、国際交流、社会との連携について

学生情報システム等の統合認証システムによるID/パスワードの統合、シングルサインオンの推進による利用者の利便性の向上、センター運用している仮想基盤上へ事務情報システムの集約といったシステムの最適化の分野でICT 推進に積極的にかかわることで大学運営に貢献している。さらに大学データベースを運用し、大学評価活動に積極的にかかわっており、これらのことは評価できる。

海外からの訪問者を受け入れ、各教員が国際会議で研究発表を行っており、国際交流に貢献しております。

情報処理学会をはじめとする学会の役員、国立情報学研究所の委員、佐賀県の審議会委員等センター教員により社会連携活動に貢献しております。

9. 外部評価の体制について

従来、4年ごとに行っていた外部評価を、今回から2年ごとに行うことになりました。外部評価委員会のでセンター関係資料、自己点検・評価報告書をもとにした説明、案内や的確な質疑応答は、

大いに参考になりました。

10. 組織の活動に関することについて

運用委員会が、ほぼ毎月開催され、個々のシステムの運用状況やシステム更新時の導入スケジュール等を報告されている。センター主催の講習会やシンポジウムの開催などとともに運用委員会活動も学内へセンターの活動を周知する機会となっていると思われる。さらに、日々の業務が詳細に記録されていることに敬意を表します。この記録は、業務改善等のフィードバックに多いに有効であると思います。

11. 前回の指摘事項に対する本センターの対応について

平成 26 年度末のシステム更新等の機会に、前回の外部評価の指摘事項に関してシステム等に反映されてきた。CSIRT の設置等、検討を要するものは実施に向けて検討をすすめている。

12. その他の意見等

ICT 推進の役割に加えて、最近のサイバーセキュリティの状況に対応するための情報セキュリティ体制の確立が重要になってくると思われます。セキュリティシステムは、正常な利用に対しては遮断等の介入は起こらないため、これらのシステムの運用は、末端の利用者には見えないものになります。従来からあるシステムを安定運用しながら、情報セキュリティ体制の確立などさらなる工夫と新たな挑戦に期待します。